

事業名称	居場所と相談マルシェ事業
団体名・代表者	特定非営利活動法人コムサロン二十一
協働の相手方	総合福祉会館

目的	<p>姫路市において、ひきこもり状態にある方が必要とする支援機能とその運営のありかたについて、公民協働によるモデル事業の実施と効果の検証を通じて検討・研究を深めることを目的とする。</p> <p>また検討会については、行政や関係機関、民間の支援関係者の参加のもと、ひきこもり状態にある当事者やそのご家族等に対する公的支援の在り方を検討することを目的とする。</p>
内容	<p>ひきこもり状態の方や無業者が一步踏み出し社会へ繋げる就労支援は、ハローワークやひめじ仕事支援センター、くらしと仕事の相談窓口、ひめじ若者サポートステーションなど、当事者の状態に応じた支援体制の構築が図られてきた。その一方で、ひきこもり状態や無業状態から脱出し、何かしなければいけないと思いつつ気力体力が乏しい方にとって、就労支援ではハードルが高くなかなか次の一步が踏み出せない方も存在する。</p> <p>ひきこもり状態にある方の支援の現状は、保健師やひきこもり相談支援センター播磨ランチによる訪問支援等によって社会との繋がりはあるが、個別支援から集団支援への移行となる次のステップが社会的に不足しており、就労支援の一步を踏み出す場ではなく、半歩を踏み出せる居場所のような機能が求められていると考える。したがって、本事業を通じて、①ひきこもり支援検討会議、②居場所の試行、③関係機関のネットワーク構築を実施し、姫路市として令和3年度に向けた「ひきこもり支援のあり方」について、公民が協働し検討を行う。</p>
事業経過	<p>令和2年6月16日 於：総合福祉会館 不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議（事前会議） ○企画提案内容の共有と結果報告 ○ひきこもり支援体制の充実に向けた事業検討</p> <p>令和2年7月21日 於：総合福祉会館 不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議（第1回目） ○講義「地域におけるひきこもり支援の役割について」 講師：神戸市看護大学 教授 船越明子氏 ○居場所実施内容の検討 ○相談マルシェ実施内容の検討 ○姫路市におけるひきこもり支援の社会資源と対応方針の検討</p> <p>令和2年8月31日 於：総合福祉会館 （居場所）ぶちたぷち（第1回目） ○内容「おにぎり作り」 ○参加者14名</p> <p>令和2年9月11日 於：総合福祉会館 不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議（第2回目） ○居場所「ぶちたぷち」第1回目の実施報告及び次回以降の内容・課題検討 ○相談マルシェ実施内容の検討 ○姫路市におけるひきこもり支援の社会資源と対応方針の検討 ○アドバイザー（神戸市看護大学 船越明子教授）より助言</p> <p>令和2年9月30日 於：飾磨保険福祉サービスセンター （居場所）ぶちたぷち（第2回目） ○内容「ポニーとふれあい体験」 ○参加者：11名</p>

	<p>令和2年10月30日 於：飾磨保険福祉サービスセンター （居場所）ぶちたぷち（第3回目） ○内容「ぼっちゃ」 ○参加者：7名</p> <p>令和2年11月13日 於：総合福祉会館 不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議（第3回目） ○居場所「ぶちたぷち」第2・3回目実施報告と課題検討 ○相談マルシェ実施内容（全体の流れ・機関紹介の様式・タイムスケジュール等）説明 ○姫路市におけるひきこもり支援の社会資源と対応方針の検討 ○アドバイザー（神戸市看護大学 船越明子教授）より助言</p> <p>令和2年11月24日 於：飾磨保険福祉サービスセンター （居場所）ぶちたぷち（第4回目） ○内容「わんわんとふれあい体験」 ○参加者：8名</p> <p>令和2年12月25日 於：総合福祉会館 相談マルシェ（参加者数：来場93人・オンライン46人 総計139人） ○支援機関紹介 ○8050問題についての人権映画「カンパニユラの夢」上映会 ○講演「誰も見捨てない 佐賀方式 ひきこもり支援の実態について」 講師 NPO 法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史氏 ○パネルディスカッション「ひきこもり支援の現状と課題」 パネリスト：谷口 仁史氏・船越明子教授（神戸市看護大学）・作道 雄氏（映画監督）・ 貞本 範之氏（兵庫ひきこもり相談支援センターアドバイザー）</p> <p>令和3年2月26日 於：総合福祉会館 不登校・ひきこもり・若年無業者等支援機関が繋がるプロジェクト会議（第4回目） ○居場所「ぶちたぷち」実施報告 ○相談マルシェ実施報告 ○姫路市のひきこもり支援について報告 ○令和3年度に向けて ○アドバイザー（神戸市看護大学 船越明子教授）より助言</p>
<p>事業の 効果</p>	<p>姫路市及び周辺自治体に居住するひきこもり状態の方の困りごとが支援に繋がるように、公民協働による実践により、行政サービスと地域福祉をトータルに見た支援の形成が期待できる。</p>
<p>今後の 展望</p>	<p>① 今まで受け入れ先のなかったひきこもり当事者の受け皿が必要である。 ② 居場所を作ることで、当事者や現場で対応する支援者が新たな選択肢を持てる。 ③ 居場所を運営し中核となると同時に、あらゆる地域活動や取組を「居場所」と捉えネットワークを構築し、地域を巻き込んだ取り組みが期待できる。 ④ 地域社会の中に当事者及び家族が安心して出かけられ、受け入れられる居場所を設置することで、自分ひとりではないという安心感と自らの役割を感じられる機会を通して社会とのつながりを回復する道を作る。</p>

【実施団体の事業総括・感想等】

平成30年度より本事業の助成を受け、行政と民間の協働によるネットワーク会議の開催を行ってきました。令和2年度はひきこもり状態や無業状態の方の外出先として、居場所の提供を試行的に実施しました。

これまで「就労」を目的とする場の提供は国や姫路市の委託を受けて実施してきましたが、就労を目的としない場の提供は初めての試みかと思えます。保健、福祉、障害、労働等の狭間で悩みを抱えておられるいわゆるグレーゾーンの方が居場所に参加して頂き、これまで行政サービス・支援の手が行き届きにくかった方へサービス提供できたことは大きな意義があったと思えます。そして、本事業を通じて、令和3年度より新規事業としてひきこもり状態の方へ居場所支援事業を、行政として実施していただくことも決定し、姫路市提案型協働事業の目的に合致する取り組みができたと思っています。

ネットワーク構築に関しても意義ある取組ができました。コロナ禍の中、姫路市保健所健康課、兵庫県精神保健福祉センターの保健師に感染症対策を指導して頂くと共に、オンラインとオフラインの同時並行でイベント（相談マルシェ）を開催し、100名以上の方にご参加頂きました。また、相談マルシェは、姫路市内及び播磨圏域の相談支援従事者へも参加を呼びかけました。民生委員も含む市内相談支援従事者には、総合福祉会館が姫路市の相談機関の中核として認識を強めて頂くと共に、市内の相談支援機関がどのような取組をしているのか知って頂く機会になったのではないかと思います。播磨圏域の方には、姫路の取組を見て頂く事で、不登校やひきこもり、無業状態の方の支援の在り方の1つとして、各自治体で取り組む参考になることも期待しています。

これら姫路市の取組は市内だけではなく、周辺自治体への支援にも繋がります。姫路市と播磨圏域を支えていく取組みとして、今後も連携と協働をお願いしつつ、私達も積極的に活動していく所存です。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

協働相手方の特定非営利活動法人コムサロン二十一については、ひきこもり相談支援や若者への就労支援を通し、支援ノウハウや関係機関とのネットワークを構築しており、この度の提案事業においてもそれらの経験を踏まえた効果的で実効性の高い提案が行われた。

事業内容としても、当初3回の予定であった支援関係者会議を5回開催したほか、ネットワークづくりのためのフォーラムを開催し144名の参加があるなど、当初計画を超える成果がみられた。

また、令和3年度新規事業であるひきこもりサポート事業の事業立案に向けたモデル事業としての位置付けを果たし、提案型協働事業としての目的を十分に達成したものと考えている。